

2022年

1月 ▶ 2月の星空



この図は

1/ 1 ▶ 22時

1/15 ▶ 21時

2/ 1 ▶ 20時

2/15 ▶ 19時

頃の星空です。

(惑星の位置は 2月1日)

北

○1等星

●2等星

●3等星

●4等星以下

●星雲星団

☆ 惑星

東

西

南



© 松本零士／郡山市

郡山の日の出、日の入

月の満ち欠け

1/ 1	6:52	16:32
1/15	6:52	16:44
2/ 1	6:42	17:03
2/15	6:28	17:18

新月	1/ 3, 2/ 1
上弦	1/10, 2/ 8
満月	1/18, 2/17
下弦	1/25, 2/24

※上弦、下弦は半月です。
※天王星は肉眼では見えません。

1月・2月の主な天文現象

1/ 4	しぶんぎ座流星群極大
1/ 7	水星が東方最大離角
2/13	金星が最大光度

この時季の空を見上げると、明るく色とりどりの星たちの姿に目を奪われます。そこに輝く冬の星座たちを探してみましょう。南の空でまず三ツ星が特徴のオリオン座を見つけてみましょう。そのオリオン座の足元の白い星「リゲル」から、時計まわりにおおいぬ座の「シリウス」、こいぬ座の「プロキオン」と同じく白い星をたどることができます。さらに円を描きながら、ふたご座の「ポルックス」、ぎょしゃ座の「カペラ」と黄色い星を結び、最後におうし座の「アルデバラン」までたどることができると、空に大きな六角形を描くことができます。これを「冬のダイヤモンド」といいます。澄み渡る冬の夜空に現れる大きなダイヤモンドはより一層美しいことでしょう。ぜひ実際の星空でその姿をお楽しみください。

冬の星座のひとつ、オリオン座の「ベテルギウス」は将来、超新星爆発を起こす星だと言われています。超新星爆発とは、体重の重い星が人生の最期に起こす爆発です。ベテルギウスの爆発はまだまだ先だと言われており、残念ながら私たちがその瞬間に立ち会うことは難しそうです。また、爆発後の星は「超新星残骸」と呼ばれる星雲状の天体を残します。代表的な超新星残骸に「かに星雲(M1)」があります。おうし座の角の先にあり、その見た目から名前が付けられました。そのような爆発を起こす星たちや爆発後の姿をした天体たちが普段見ている星空には隠れています。ぜひ星を探しながら、その星空の先に広がる天体たちの世界をお楽しみください。

